

畜産経営で島活性化 「小浜島・ちゅら牧場」

畜産の担い手を中心に 島の活性化への取組

仕事の窓
農林水産部
BUSINESS REPORT 1



「和也の木」と「ヨナラ水道」の向こう側に西表島が見える

沖 縄は島嶼県で約百三もの島々から成り立っています。多くの島々では、さとうきびなどの土地利用型農業が中心で、花き、野菜などの園芸作物を行うには非常に厳しい条件となっています。こうした島のうち小浜島では「畜産基盤再編総合整備事業」により草地造成を行い、飼料基盤に立脚した肉用牛生産経営が注目されています。ここでは、この事業により草地、畜舎等を整備し、安定的な畜産経営が取り組まれている事例を紹介します。

山家畜市場への出荷頭数約三百二十頭、約一億二千万円となり、島の経済を支える大きな柱となっています。畜産経営で島の活性化に向けて小浜肉用牛生産組合が中心となり肉用牛の改良増殖並びに家畜の登録、衛生業務の推進に努めています。

右 の写真はこれから紹介する「ちゅら牧場」に隣接する展望台からの景色です。展望台からはマンタの通り道「ヨナラ水道」と西表島、島内ののどかな放牧風景が一望でき、また「和也君の木」を見ることができ観光スポットとなっています。

小 浜島は、石垣港から船で約二十分、八重山群島の中央に位置する周囲約九・二キロメートルの小さな島です。NHK朝の連続テレビ小説「ちゅらさん」の舞台となったことで一躍スポットライトを浴びています。



「ちゅらさん」放映前の平成十二年の小浜島入域観光者数は五万人程でしたが、放映後平成十五年には十二万人もの人が訪れました。観光で島を訪れ、自然が媒酌人となり結婚する人や、定年退職後「第二のふるさと」とする御夫婦など、島に恋する方々も増えています。

これは家族の生活は厳しかったことから畜産経営による規模拡大への取組が始まりました。家畜人工授精師の資格を取得するなど専業として農業所得の向上を着実に図っています。また、常に家畜の改良、増殖に努め自給飼料の確保、優良肉用子



宇保和明さんと奥さんの初江さん

牛生産に夫婦で共に取り組んでいることが高く評価され、平成十五年度「八重山産業まつり」において「農林漁業賞」を受賞しています。

平成九年度には竹富町から農業経営のプロを目指す『認定農業者』に認定され、地域農業の担い手として活躍が期待されています。

平成十四年度から十五年度まで「竹富町肉用牛生産副組合長」を務め、現在は四十四戸で組織している「小浜肉用牛生産組合長」を務めています。

「ちゅら牧場」の概況は？

- 労働力：夫婦、雇用1人
- 飼養頭数(繁殖)：成雌牛四十一頭(子牛も含めると約六十頭)
- 平成九年度から平成十五年度までの七年間で「農協有家畜導入事業」により約二十頭の優良雌牛を導入し、肉用牛繁殖経営規模拡大に努めています。
- 小浜島の子牛平均価格は三十九万円ですが宇保さんは四十三万円となっています。
- 採草地：七・〇ヘクタール、放牧地三・〇ヘクタール
- 県の新しい奨励品種であるトランスバアラを小浜島において、いち早く導入し粗飼料の生産に努めています。
- 現在、九州沖縄農業研究センターのアドバイスを受け、県内で初めてブラジル原産の「ブラックキャリア」を草地約一ヘクタールに試験栽培し、粗飼料の安定確保に向け取り組んでいます。草種の特徴としては、トランスバアラ+ギニアグラスを合わせたもので十アール当たり約一四トンの収量となっています。
- 平成十五年度畜産基盤再編総合整備事業により、採草地一・四ヘクタール(借地：農地保有合理化事業)の草

今後の目標は？

宇保さんの後継者として、次男・和樹さんが県立農業大学校畜産科を卒業し経営参加することになっています。当面は、成雌牛五十頭規模を目指し将来は成雌八十頭、粗収益二千万円を目標に規模拡大を図ることにしています。このため、将来は、遊休農地等の活用を図るために「畜産担い手育成総合整備事業」の導入により、草地造成等を実施して行きたいと宇保さんは希望しています。

